

●障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278  
●グループホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地1 TEL・FAX 087(888)2557

●発行/社会福祉法人ポムドパン  
●発行日/2016年3月22日

## 三谷地区文化祭 芸能発表・作品展示に参加しました



10月30日(金)・31日(土)

毎月行っている水墨画の作品を中心に、余暇時間で利用者が制作した作品を多数展示していただきました。

水墨画を始めたころは筆を正しく持つという事からのスタートでしたが、今では先生のお手本を見ながら一生懸命描いています。

11月1日(日)

昨年に続き、2回目の参加です。今年は健康まなび体操で講師をして下さっている間学美先生をはじめ、利用者の保護者も一緒に笑いヨガ「笑び(美)～体操」を披露してきました。会場に来ていた地域の皆さんも曲に合わせて体を動かしてくれていました。

どうか笑顔があふれる地域でありますように。

地域との  
つながり

### 【地域との繋がり】 【地域で暮らす】 【助け合う社会】

国の施策の中にも、「地域で暮らす」が提唱され、誰もが安心して生活できる社会の実現をめざしています。

社会福祉法人 ポムドパンが誕生して、12年の歩みの中、地元自治会をはじめ、三溪小学校、三谷保育園、コミュニティ等々、さまざまな各関係機関と交流を重ねていただき、また、ご支援をありがとうございます。

周囲の励ましや、人々と触れ合うことで少しずつ成長し本人の生活の豊かさにつながっています。

そこに暮らす一人ひとりが自立に向けた生活、本人なりの幸せを感じられる生活ができるように今後も寄り添った支援を継続し、エールを送り続けたいと思います。

今後も、さまざまな交流の場を通して、障害についての理解を深めていただき、関心を高めていただき、ともに助け合える社会になるように引き続き、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

管理者 松原 正子

### 笑び(美)～体操

作詞:周 学美  
作曲:中村淳子

笑う かどには 福来たる  
笑いは からだに いいんだよ  
いきいき 長生き 元気よく  
満ち溢れてくる エネルギー  
わっはっは～  
わっはっは～  
おなかのそこから 声出して  
わっはっは～  
わっはっは～  
みんなで 元気に 笑いましょう



松ぼっくりの  
ポムです。

「ポムドパン」とはフランス語で松ぼっくりという意味です。「ウインドヒル」の建つ丘には、時折、松ぼっくりが転がっています。松ぼっくりは、松の木の生命である種子が住んでいるお家です。ここで種子が大切に生まれ、また、次の命を生み出していきます。一年中緑の葉をつけ、砂地でも荒地でもしっかり根をはり、大きく枝を広げている松。その生命をしっかりと包み込んでいる松ぼっくり。「社会福祉法人ポムドパン」も強く・たくましく・大きく、そして、小さな一つひとつの生命を育む暖かな場所なのです。



松ぼっくりの  
パンです。

ウインドヒルオリジナル 植木鉢



# リサイクルペーパーポット

ウインドヒル利用者は「まぜろうくん」と「はちろうくん」の機械を使って地球環境に優しい製品づくりに取り組んでいます

シュレッダーにかけた古紙を再生した植木鉢です。製造時に接着剤を一切使用しておりませんので環境に優しく最後は土に戻ります。

前回号でもご案内しました環境に優しいリサイクルペーパーポットの完成品です。今から制作の過程を紹介します。



リサイクルペーパーポットにサボテンを植えました。



まぜろうくん



シュレッダーした用紙をまぜろう君（攪拌機）で攪拌しペースト状にします。その横の洗濯機でペースト状になったシュレッダー用紙を洗濯ネットに入れて脱水します。



シュレッダーを回している



回収してきた古紙

利用者が手回しのシュレッダーで新聞紙を裁断しています。シュレッダーしたリサイクル用紙は香川県庁や高松市役所から提供してもらっています。



ふる篩ふるにかけて細かくしている



染料を使って着色する事もできますので、オリジナル植木鉢を作る事もできます。

脱水した紙を篩ふるにかけて細かくします。利用者が手で擦りながら作業をしています。

ルーヴさんとのコラボ商品も企画中です。



ご期待ください!!

クッキーの詰め合わせサンプルです。店頭に並ぶ日をお楽しみに!!

### 7 エコ植木鉢を取り出している



はちろう君で形成されたエコ植木鉢を取り出しています。その時にエアコンプレッサーで鉢を浮かせる工程があります。

### 6 レバー操作



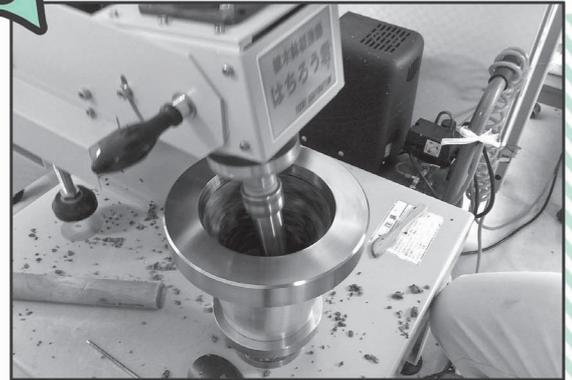
はちろう君の操作レバーを使って上→前→下→後の順番に操作しています。

### 8 エコ植木鉢を乾燥中



完成したエコ植木鉢です。約10日から2週間自然乾燥します。

### 5 はちろうくん回している



はちろう君の型を回して形成している様子です。紙の分量を間違うときれいに作れません。

完成～

水やりしても半年程度は中から土が漏れたりすることはありません。そのまま土に植えると約1年位で土に戻ります。環境に優しい植木鉢です。

注：しかし、直接ポットに水をかけると溶けますよ～

植木鉢



ペン立て



いろいろな用途にお使いいただけます。  
使いみちについてアイデアを募集しています。  
1つ100円で販売しております。  
ぜひお問い合わせ下さい。

### 4 はちろうくん型に入れて底固め



篩にかけた紙をはちろう君（形成機）の型に入れて底固めをします。

# 地域とのつながり

## 三溪小学校 清掃ボランティア



「毎月、大そうじの日に参加」

三溪小学校 清掃ボランティア

平成25年1月から丸3年になります。毎月、地元の三溪小学校の大掃除の日に合わせて清掃のボランティア活動をしています。掃除をしていると、先生や生徒の皆さんから「いつもありがとうございます」と声をかけて下さりとても暖かい気持ちになります。

これからもこのような活動を通じて、地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

# 第10回 地域とのつどい

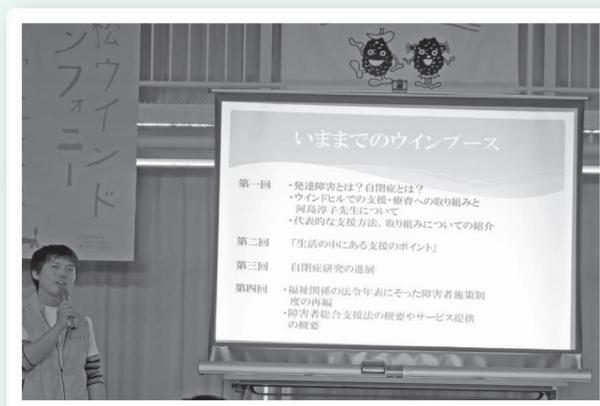
## ウインブース発表

「ウインブースとは？」

副管理者 鈴木 克幸

年に一度開催されている「地域とのつどい」において来場者に「障害者福祉」「自閉症」「発達障害」また「ウインドヒルの利用者の様子(支援のポイント)」を中心に紹介している展示コーナーの一つです。

毎年、展示コーナーに資料を並べて来場者に見ていただくに留まっていた中で今年度のウインブースは具体例なども織り交ぜてスクリーンを使って会場の皆さんにプレゼンテーションをする形で発表をしました。その反響として来場者から「新たに再認識できたことがあった」「自閉症の名前は知っていたけど初めて説明を聞いた」、また利用者の保護者からも「わが子のことでも気づかされる場所があった。新鮮だった。」などの言葉がありました。ウインブースを通して伝えたい大切なところは、「本人の障害の特性を捉えて一貫性のある適切な関わりを継続すること」で、「利用者の能力を引き出してあげられること」「障害があっても、いくつになっても成長するということ」です。今後のウインブースにもご期待頂きつつ、ぜひ「地域とのつどい」にお越しください。



## 見学ツアー



予想を上回る18名もの希望者に施設の見学ツアーを行いました。利用者との関わりのエピソードや自閉症の障害特性などを説明しながら見学していただきました。見学された方から「10年経ったとは思えないほど綺麗ですね」とお褒めの言葉も頂き、これからも利用者と一緒に環境美化に取り組んでいきます。

# ウインドヒルに見学に来られました

10月22日、ウインドヒルを見学させていただきました。

訪問前は、自閉症に特化した施設で構造化をどのように工夫されているかを見せていただこうと考えていましたが、訪問して最初に、松原施設長から「構造化はしていません。自閉症の方と信頼関係を築きながら、支援員さんが譲らないしっかりしたラインを共有して支援しています。一人の大人として、座って待つことを基本にしています。」とお話がありました。施設内を見学させていただくと、ユニット毎にきれいに清掃された明るいスペースから利用者の方の豊かな生活が想像できました。また、作業場では以前は問題行動やこだわりが強かったと容易に想像できる方が『座って』作業をされている姿や穏やかな表情から、松原施設長が最初に話された『座って待つこと』が支援により可能であることが理解できました。その他、いろいろな工夫や取組を見せていただき、大変参考になりました。お忙しい中、松原施設長、竹内さん、丁寧にご案内していただきありがとうございました。

社会福祉法人 三豊広域福祉会 地域支援センター まるやま

## 高松市保育所 特別支援保育担当保育士研修会

高松市から依頼を受けて今回で6回目の研修会です。

保育園の現場において障害を持っている園児さんの障害特性を適切に理解した上での関わり方等について研修しました。

- 障害を持つ人が、基本的な生活習慣を身につけたり、生きていく上で必要な能力等を修得するには、その人の特性や能力に合わせた環境を整えたり、「一貫性と継続性」をもって正しく伝えていく周りの配慮が大切だと学んだ。
- 支援員の方と入所されている方との信頼関係が伝わってきて、落ち着いた雰囲気の中で生活を送っていると感じられた。
- 今まで「パニックをおこさないように支援する」という考え方でいた。しかし生活の中でパニックになった時、それに対応できる力をつける為にも、「パニックになってもいい」という考え方を持つことが大切であるということだった。
- 社会に出て人に迷惑をかけない愛される大人になるために①座れる②待てる③聞くことができるように、そして排泄の自立など基本的な生活習慣を身に付けること、その子の5年先10年先を見て本人のために自立させることが大切であることを学びました。
- ウインドヒルに行かせてもらって、驚いたのは施設全体が清潔で臭いもなく利用者の一人ひとりの部屋も綺麗に片付いている事でした。
- できないではなく、できるようになるまで根気よく関わる事。又、諦めず向き合う事の大切さ。毎日の積み重ねで出来るようになることを教わりました。
- 今回の研修で私が一番キーワードだと思ったのは「その人の一生を見据えて援助する」という事です。「最終は、心を育てる」という言葉を聞きそれは、保育所も同じであり、各機関が思いを同じに取り組んでいかななくては心を新たにすることが出来ました。
- 信頼関係(丁寧な関わり、傾聴)協力体制(職員も一緒になって生活をしたり楽しむ。ゆとりを持つ)対応の一貫性(譲らないラインと譲ったふりをする)を自分に向けてみると自分のペースで進めており子どもの思いを十分に聞き入れてないのではないかと思った。
- 支援する側として一貫性と継続が何より大切であるということが、とても印象に残りました。
- 心や体が成長する幼児期に社会性を身に付けていくことが大切だと思った。
- 障がいとは治すべきものではなく関わる人が上手に付き合っていくものだと感じた。
- 初めてウインドヒルを訪れて、施設という言葉が持つイメージとは程遠い。その名の通りの心地よい風を感じることができる豊かな自然の中の環境と、清潔に保たれている施設に驚いた。普通の人ができるのと同じ生活の流れ、同じ年齢の子がするようにしてあげたいといったライフステージに合わせた関わり喜怒哀楽や五感などすべてほかの人と同じように経験させてあげたいという思い。「できないことに目を向けるのではなく、当たり前のことを確実にできるようにすることが大切で支援側がたくさん引き出しを持つ力量がポイントとなり、行動と心を育てることが大切となる。その信頼関係が成長につながり出来るようになる」ことは日々の保育に通ずると思う。言葉を必ず添える。なぜなら生活には言語が必須であり言語で心が育ち信頼が深まるからであると学んだ。



～たくさんの感想をありがとうございました～

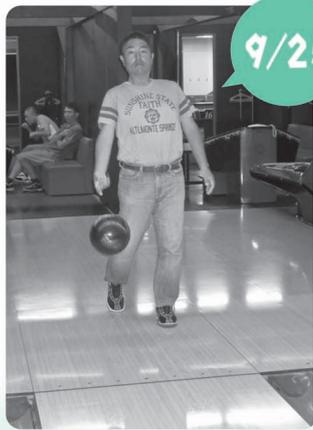


# ウインドヒル・風見の家の主な行事

## ボウリング

9/25

以前は球を投げた後は知らん顔だったのが、投げた球の行方を目で追いピンが倒れるのを見て喜ぶ姿や悔しそうな表情を浮かべるようになりました。継続は力なり。



## 秋の遠足 まんのう公園

10/6

一面に咲いたコスモスに見とれたり、芝生広場では大きなボールを転がすなど良い気分転換になりました♪とてもきれいでした。



## 健康診断

11/20

注射が苦手な利用者も落ち着いて採血が出来ました。



## インフルエンザ予防接種

12/1

一昨年、昨年と2年連続でインフルエンザになった利用者はいません。日頃から手洗いやうがいもしっかりできるように取り組んでいます。日々のウォーキング、ジョギングの体力作りも免疫カアップです。



## クリスマス会

12/22

利用者、保護者、職員、関係者総勢105名で行われたクリスマス会。各ユニットごとの発表会も年々パワーアップし、今年はグループホーム風見の家とのコラボでフラダンスもありました。会場が笑いでいっぱいになりました♪今年も保護者会からたくさんのクリスマスプレゼントがあり、余暇の時間にに使わせていただいています。



## 初詣

1/6.7.8

屋島大宮八幡宮に初詣に行きました。神殿でのお祓いも利用者全員が落ち着いており靴を揃えて入る、周りの動きに合わせて頭を下げる事もでき、利用者の成長を感じました。



## クリスマスチャリティ公演 劇団四季「人間になりたかった猫」

11/4



## 福祉のつどい2015

11/10



## 卓球大会

12/25



## 研修報告

### ● 第29回全国自閉症者施設協議会神奈川大会に参加して

平成27年11月12・13日に、第29回全国自閉症者施設協議会神奈川大会に、管理者・主任看護師と保護者2名と共に参加させていただきました。今回の大会の特徴として、自身がアスペルガー症候群の診断を受けた当事者2名の方が講義をしてください、私自身よく分かっていなかった本人の内面の事が聞けた事は今後の支援の参考となりました。また分科会では、行動障害を持つ利用者の方に対する支援という部会に参加しました。

今回保護者の方と一緒に参加させていただき、熱心に講義を聞いたり質問をしたりする姿を見たり、自身の子どもの事をとても大事に思っており、ウインドヒルに預けて良かったという事を聞け、今後の支援の励みになりました。

支援員 鎌田 泰明

### ● 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)

昨年10月15日、29日の2日間、平成27年度強度行動障害支援者研修(基礎研修)が香川県立文書館で行われ、参加させていただきました。

実践演習では、支援者役が指示する意味不明の言葉を聞いて、身振り手振りで指示の理解を試みる体験をし、コミュニケーションの質的障害を持つ人のもどかしさを実感しました。また、支援するうえで必要なことは、やる気、愛情、プラス技術を持つこと。本人の力と周囲の力と支援のスキルの3つのベクトルが作る容積が本人の能力になることを考えさせられ、気の引き締まる思いがしました。利用者の方の成長のため、役立てたいと思います。

支援員 松原 美恵

### ● 全国知的障害福祉関係職員研究大会(高知)

高知県で開催された全国知的障害福祉関係職員研究大会に参加させていただきました。全国の様々な施設からたくさんの職員の参加がされていました。2日目に参加した分科会では、グループごとに分かれてのグループワークがあり、研究発表を通して見えてきた課題をみなで話し合ったりと、とても有意義な時間でした。特に印象深かったのは、どこの施設でも問題行動の絶えない利用者があり、その対応に日々苦心されているということでした。「自分のところだけではない、みな必死で取り組んでいるのだ」と、出張から帰ってからの勤務に向けて、気持ちを新たにすることが出来ました。支援員 鍋谷 明子

### ● リスクマネジメント研修

この研修の初日の講義の中で紹介された言葉が、リスクマネジメントの前提として「人は、ミスをする。」「人は、事故を起こす。」「人は、病気や怪我をする。」「人は、自然災害の影響を受ける。」です。

利用者の生活を支援する上で私達の重要な使命は「利用者が安全で安心できる生活の提供」です。単に事故を減らそう、リスクを回避しようというだけでなく、最終的には利用者へのサービスの質を向上させるための活動という目的をもち「危険予知訓練」「ヒヤリハットの集約、検討」「マニュアルの定期的な見直し」「事業所(支援)への苦情受付」などさまざまな角度から支援の質の向上に向け取り組んでいます。「利用者の生活が今後も変わらず、安全で安心できるものであるために」職員一丸となってリスクマネジメントに取り組んでいます。

副管理者 鈴木 克幸

## 職員研修



### ● 服薬について(三光病院 星越Dr.)

現在、ウインドヒルでは利用者の9割の方が抗てんかん薬、抗精神薬、睡眠薬、抗アレルギー薬、内科的な薬などなんらかの薬を服用されています。

H27. 12. 9正職員を対象に協力医のお話を聞く機会をつくり、薬について日頃、職員が疑問に思っていることに対し医師の立場からお答えいただきました。

お話の中で「自閉症に効くお薬はない。根本的な治療法はなく対症療法しかない。」と言われ「薬は社会生活を安全におくるため本人の為に必要である。」と話されたことが印象的でした。

看護師 金川 恵子

### ● 虐待防止研修

平成27年11月17日(火)、講師:高嶋洋伸氏(高松市障がい福祉課)を招いて、ウインドヒル会議室にて虐待防止研修を実施しました。

講義の中では高松市の通報事例をもとに虐待と認定されたケースなど高嶋氏より丁寧な説明がありました。毎月、数件の虐待の疑いで通報がある事に驚き、それぞれの事情により行政が介入する際、慎重に対応されている様子が伺えました。

施設では言葉で訴える事が難しい利用者も多く、私たち職員が守っていく使命があります。虐待になるような状況をつくらないように、組織で考えていく必要性と責任感を改めて感じました。

支援員 村上 文生

# 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員 (敬称略・順不同)

◆**団体会員** 平成27年度 平成27年9月3日～平成28年1月31日

田中電気保安管理事務所

◆**個人会員** 平成27年度 平成27年9月3日～平成28年1月31日

宮崎 光 山西 明 三好美千代 大町 幸子 大門 亘 森 ヨシ子 加藤 恵子 多田 修

平成27年9月3日～平成28年1月31日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会頂きました。平成28年2月1日以降にご入会の方々のお名前は次回の会報に掲載させていただきます。  
本当にありがとうございました。

## 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とグループホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

**年会費** 個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

**ご入金方法** 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

本当にありがとうございました。

## 赤い羽根共同募金

当施設では、自閉症者の生活を支援している中で、利用者の皆さんのレクリエーション日中活動などにおいて赤い羽根共同募金の協力で購入した公用車や作業に関わる設備をとっても有効に利用させて頂いています。思慮を受けている私たちもまた、募金をする立場になって、同じように誰かの役に立てて頂きたいという思いから今回、募金させていただきました。

法人関係者で取り組んでいる社内でのワンコイン運動で集まった気持ちが今回の募金の中の一部にも含まれています。

保護者、職員、施設に訪問された方々のご厚意で募金頂いたものです。



**苦情解決処理状況**(平成27年9月1日～平成28年1月31日) **苦情受付件数** 0件

## 保護者会コーナー

### 「親子の歩み」

ウインドヒルが開所してもう11年が経ちました。入所してから成長が見える利用者者に比べ、私を含めて保護者は外見も中身も衰えを感じる今日この頃。ウインドヒルのあの坂を上るのがきついか、作業棟への階段の上り下りはしんどいかよく聞きますよね。子供のことよりも自分の身体の方を心配しなければいけない日が続いてきます。その日まで親として子供に何ができるのか、何が残せるのかと考えます。

私の息子は、入所してから随分成長しました。落ち着いたので人の話もよく理解できるようになって、行動範囲も広がりました。今では、忘れかけて体力の落ちた私の頼りになっています。

これから先の十年もあつという間です。親は老いと戦いつつ、施設と協力して利用者の成長に携わっていきましょう。

細川 文子

## 編集後記

平成27年11月8日(日)第10回地域とのつどいを開催しました。当日は心配されていた天候も回復し、地域の方、ボランティアの方、関係者の方、また利用者のご家族の方など過去最多のお客様にご来場いただき大盛況で終える事が出来ました。改めてポム・ド・パンが本当にたくさんの方に支えられている事を実感し、感謝の気持ちで一杯です。今後ともよろしくお願い申し上げます。



メリー♀ (年齢非公開)  
2008年12月にウインドヒルに来ました。



モモ♀  
2006年1月生まれ